

## 平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

## 「グローバルな視点で地域社会を支える人を育てる、インクルーシブな総合学科高校」

総合学科のシステムを効果的に活かし、生徒ひとり一人が自ら選択、体験、参加することを尊重し、自らの課題に意欲関心を持って向き合い、進路実現を図るための豊かで細やかな教育活動を提供する。自他の多様性を受け入れグローバルな視点を醸成し、地域社会を支えリードする人を育てることにより、地域に貢献し地域から信頼される学校となる。

3年間の体系的な教育活動を通して「自己表現力 コミュニケーション力 共感力 社会貢献力 論理的思考力・表現力」を培い、社会につながるチカラを育む。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の向上

(1) 新たな教育課程の実施と、体系化した3年間の「松高における学びの循環過程」の中で、総合的な学力を育てる。

ア 「産業社会と人間」「選択授業」「課題研究」を中軸に、「松高における学びの循環過程」である、「体験する」「振り返る」「考える」「動く・伝える」プロセスを大切に、参加体験型の学びを通じ、豊かな感性を醸成させる。

イ 3年間の体系化した「ライフワーク」の中で、論理コミュニケーションの指導を定着させ、論理的な思考力・表現力を培い、総合的な学力を身につけさせる。

ウ 各学年での学力検査の実施により、学力の定点観測と対策を行い、基礎的・基本的な学力の定着を図り、進路実現を見通した学力保障を行う。

(3) ユニバーサルな授業づくりをめざし、年間授業改善サイクルを充実させる。

ア 春夏の授業公開週間・教員研修・年間2回の各講座毎の授業アンケートの実施を連動させ、各講座毎の課題を明確にし、授業改善に取り組む。

イ ユニバーサルな授業づくり・教室等の環境整備をめざし、「視覚化・構造化・協働化」の具体化を進める。

ウ ICT環境を整備し、LAN教室・松原高校情報発信システム(M-mesch)・タブレット端末の授業での活用を広げる。

エ 「使える英語プロジェクト事業」(English Frontier High School)実施3年の成果を、さらなる推進と府内への発信を図る。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度(平成25年度53.0%)を、3年後には60%に上げることを目標にする。

## 2 グローバルな視点を育む人権教育の推進

(1) 「人権の集い」を取組みの中心に置き、ピアエデュケーションの視点を大切に人権教育を推進する。

ア 1学年のHR合宿を契機に、違いを認め合い、自分を見つめ語ることを人権学習の基本に置く。

イ 当事者の話を聞く機会等を通じて、様々な人権問題を生徒が自らの問題と考える態度を養う。

ウ 障がいのある生徒とともに生きる「仲間の会」、HIV啓発グループ「るるく」、「ピアカウンセラー」「部落問題研究部」「朝鮮文化研究部」「JCBC」「ユネスコス쿨の活動」「スタディツアー」「ピースワーク」など、生徒の自主活動を充実させ、近隣の幼稚園・小中学校への出前授業等を組織的に行う。

エ 教職員の人権研修を更に充実させ、校外で受講した研修については、成果を校内で還元する。

## 3 生徒理解のための校内体制の充実

(1) 「高等学校支援教育力充実事業」の「支援教育サポート校」として、教育実践の一層の充実を図り、他校への発信と支援の充実に取り組む。

(2) 支援教育コーディネーターが自立支援教育コーディネーターと教育相談委員会をつなぎ、各学年との連携体制を機能させる。

また、各種会議を通じて気になる生徒を確実に把握し、課題に応じて定期的なケース会議や専門家の活用・福祉機関との連携を図ることにより、具体的な生徒支援を行う。

(3) 定期的な校内研修やケース会議の開催により、発達障がい等の理解を深め、生徒の課題に応じて生活指導と教育相談の充実を図る。

(4) 各中学校との連携を深め、生徒情報交換の機会を充実する。(年間2回以上)

(5) 中退、転学した生徒に対して、追跡調査を実施し、学校改善における課題解決につなげる。

※進路未定率のさらなる縮小をめざす。(H22年13.5 H23年9.6% H24年8.9%)

## 4 キャリア教育の推進

(1) 総合学科のシステムを活かし、3学年を通して体系的・計画的なキャリア教育を実施し、生徒の進路実現を図る。

(2) 看護・福祉・保育・教育を中心に実習体験を拡充するとともに、多様な外部講師を活用する。

(3) C-step等、就労支援機関・福祉機関と連携し、自立支援生や他の障がいのある生徒の働く場の創出に努める。

## 5 OJTによる教職経験の少ない教職員の育成

創設以来行ってきた複数担任制度を継続し、校内外の各種プロジェクトを活用することにより、教職経験年数の少ない教員の育成を行う。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>(学習指導等)</p> <p>・「学校生活は充実している。」と答えた生徒は85%を超えており、「学ぶ意欲が上がるように、教え方に工夫している先生が多い。」に73%(前年度比8ポイント↑)と、授業改善の取組の成果が出ている</p> <p>(生徒指導等)</p> <p>90%を超える生徒が「校則を守っている。」と答えており、90%近くの生徒が「社会のルールやマナー(あいさつ・敬語)が身につけてきた。」と答えている。また、さまざまな人権や命の大切さを学び、『思いやりの気持ち』が身につけてきた。」と90%をこえる生徒が答えている。引き続き、生徒の心に響く取組を実施していきたい。</p> <p>(保護者)</p> <p>95%の保護者が「松高に入学させてよかった。」と答えている一方で、PTA活動やホームページの活用については決して高い評価をいただいているとは言えない。今後の課題としてこれらの充実に取組んでいきたい。</p>	<p>第1回(6/21)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人を大切にする、人を支配しない証として発信や対話が続いてほしい。</li> <li>「論理コミュニケーション」では就職活動などで生徒が抱えている問題の解決につながる。</li> <li>さまざまな活動を3年間続けることでそれがライフワークにつながるという総合学科のよさがでていた。書き言葉で伝える、という特色を出そうとしていることも良い。</li> <li>教科間の連携で新しいことができています。</li> </ul> <p>第2回(12/13)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんな同質ではなくて、ちょっと違う子が入っている。だからストーリーが生まれる。アンケート等の量よりも、子どもの変容を質でとらえることが大切。</li> <li>「インクルーシブ」とは、お互いが高まる仲間作りである。</li> <li>協議会のあり方がよかった。数字の報告でない生徒の様子が報告されている。</li> </ul> <p>第3回(3/7)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>きめ細かい指導と仲間づくりで生徒の成長がよくわかる。</li> <li>次年度入試から求められるアドミッションポリシーは松原高校の歴史を踏まえて、他校にない特色ある内容を打ち出してほしい。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1)「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにしたユニバーサルな授業づくり</p> <p>ア 年間2回の授業公開・授業アンケート・校内研修によるユニバーサルな授業づくり及びICT機器等の活用による授業改善</p> <p>イ 各学年の「ライフワーク」の学習システムの構築及び「論理コミュニケーション」の学びの定着</p>	<p>ア・「視覚化・協働化・構造化」をキーワードにユニバーサルな授業づくりをめざすため、年間2回の学校公開・授業アンケート・校内研修を活用し、個々の講座における授業改善を図る。</p> <p>・ICT環境の整備を図り、LAN教室・松原高校情報発信システム(M-mesch)・タブレット端末の授業における活用の拡充を図る。</p> <p>イ・H25年度より展開している新教育課程の実施の中で新しく取り組んでいる、1年時の「ライフワーク」の、国語総合における「論理コミュニケーション」の学習の定着に重点的取組みを行う。そして、2・3年時の「ライフワーク」の学習システムを構築する。</p> <p>・2・3年生の学びに「論理コミュニケーション」の学習を取り入れ、「学びの循環過程」の中で、豊かな感性と論理的な思考力・表現力を育む。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断結果における授業満足度の向上(H25年度53.0%)</p> <p>・2回目の授業アンケートの満足度の向上</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断結果におけるICTによる授業への満足度の7割以上の維持(H25年度73.7%)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断結果における「自己表現力」「コミュニケーション力」の項目に「論理的思考力・表現力」を加え、肯定的な回答が7割以上をめざす。</p>	<p>ア・生徒向け学校教育自己診断における「分かりやすく集中して勉強できる授業が多い。」の問いに対して72%の生徒が肯定的回答をしている。(◎)</p> <p>・現在集計中</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断におけるICTを活用した授業への満足度は約79%と昨年度よりも向上した。(◎)</p> <p>イ・生徒向け学校教育自己診断における「自己表現力が身についた。」「コミュニケーション力が身についた」に対する肯定的回答が両方とも80%を超えた(◎)</p> <p>・「論理的思考力・表現力」については、「論理コミュニケーション」の取組をより一層推進し、豊かな感性と論理的思考力・表現力を引き続き育成する。1年生の授業アンケートにおいては「論理コミュニケーション」を学び「知識や技能が身についている」との問いに肯定的な回答が88%であった。また、3年生の課題研究を今年度の3年生は2年時の4タームより実施することにより、全体的に課題研究の発表や論文のレベルが向上した。(○)</p>
2 夢と志を持つ生徒の育成に向けた指導の充実	<p>(1)体系化した人権教育・志学・キャリア教育による生徒の人間関係力の向上と進路保障</p> <p>・進路実現に向けた補習・講習・面接等の組織的な実施</p> <p>(2)支援教育及教育相談の充実</p> <p>・生徒支援ネットワークの充実とサポート校としての他校への支援推進</p>	<p>ア・学年・教科・分掌が連携し、3年間のキャリア教育を体系化し、組織的な対応を充実する。</p> <p>・専門家を活用した校内研修やケース会議を定期的に開催し、発達障がいを含め様々な課題への理解を深め、生徒一人ひとりへのきめ細かな粘り強い対応を行う。結果として、中途退学を防止し、生徒の進路実現につなげる。</p> <p>イ・自立支援推進校としての実践を踏まえ、C-stepや外部の機関と連携しながら、校内の生徒支援ネットワークをさらに機能させ、個別の支援を充実させる。</p> <p>・平成24年度から指定を受けている「支援教育サポート校」の取組みを発展させる。</p>	<p>ア・生徒の就職率100%維持</p> <p>・進路未定率の低下(H25年度14% : 3月1日段階)</p> <p>・生徒による学校教育自己診断結果におけるキャリア教育・人権教育関連の項目での肯定的な回答の8割維持(H25年度85.1%)</p> <p>・中途退学者年間1ケタの維持</p> <p>イ・支援教育に関する公開授業の実施回数、研修への教員の講師派遣数</p>	<p>ア・生徒の学校斡旋希望者の就職率は100%を維持できた。(○)</p> <p>・進路未定率は12月末段階で8%と昨年度を下回ることができた。次年度も0%をめざしてとりくみをすすめたい。(○)</p> <p>・生徒による学校教育自己診断におけるキャリア教育関連項目の「学校は進路について必要な情報をよく知らせてくれる。」「先輩の話や進路説明会など、将来の進路や生き方について考える機会がある。」の設問に両方とも80%を超える回答を維持した。(○)</p> <p>・中途退学者年間1ケタも維持した(○)</p> <p>イ・自立支援生の就職も12月末時点で3名中2名が決定した。(○)</p> <p>・支援授業に関する公開授業、見学会を年間10回以上実施した。(○)</p>
3 安全安心で魅力ある学校づくり	<p>(1)規範意識の醸成と個々の生徒への支援体制の強化</p> <p>ア 生活指導の強化による校内外におけるルールやマナーの定着</p> <p>イ 地域との連携を図った防災・環境教育の実施</p> <p>(2)活動等を通じた生徒の自己有用感の向上</p> <p>ウ 運動系部活動の活性化に向けた取組みの推進</p> <p>エ 生徒自治会と部活動・自主活動が中心となって推進する地域連携・地域貢献の充実</p> <p>(3)広報活動の充実</p> <p>オ 小・中学生向け広報活動の充実</p>	<p>ア・校内外における生徒指導の方針について、目標を設定し共有化を図るなど、指導と支援の一体化に向け、全教員が協力しあい、構築された信頼関係をベースに、より良い改善につなげる。</p> <p>イ・ユネスコスクール活動等を活用し、国際理解教育や防災教育・環境教育等多岐にわたるテーマについて、地域の小中学校との連携を強める。</p> <p>ウ・地域からのニーズを踏まえ、運動部の活動について、必要な環境整備を行い、活性化に努める。</p> <p>エ・地域の小・中学校に対して、「るるく」「仲間の会」などの自主活動を充実させるとともに、部活動による地域連携について生徒自治会を軸にして、継続的な活動につなげるように、活動内容を広く発信し、システム化する。</p> <p>オ・学校の教育活動や成果について、地域社会に伝えるため、HPの定期的な刷新及び広報冊子の策定に加え、生徒の発表大会等を実施する。</p>	<p>ア・生徒や保護者による学校教育自己診断結果における生徒指導への理解度の向上(H25年度生徒61.3%・保護者72.7%)</p> <p>イ・ユネスコスクールの活動回数・人数(H25年度のべ30人)</p> <p>ウ・クラブハウスの利用内容</p> <p>・部活動加入率向上(H25年度52.9%)</p> <p>エ・自主活動・出前授業の回数及び各地域連携行事への生徒参加人数(H25年度のべ128人)</p> <p>・学校協議会における地域・保護者からの意見</p> <p>オ・HPの刷新及び広報冊子の策定及び生徒発表大会の実施</p>	<p>ア・生徒や保護者による学校教育自己診断において「生徒指導は適切で納得できる。」と答えた生徒が71%、保護者76%と昨年より向上した。(○)</p> <p>イ・ユネスコスクール世界大会(11月5日～7日：岡山市)には準備会(5回)も含めて、スタッフとして5名参加、7月のインターアクトクラブ国際交流会(1日)、12月の高校生のためのワンワールドフェスティバル(1日)、2月のワンワールドフェスティバル(2日)にも毎回約20名の生徒が参加するなど活発な活動を行った。(◎)</p> <p>ウ・部活動加入率は昨年度とほぼ同じであった。(△)</p> <p>エ・生徒は10回以上地域活動や出前授業に参加した。(のべ人数約130名)(○)</p> <p>・学校協議会や保護者からは一定のよい評価をいただくとともに、より一層の地域との連携を求める意見が出された。(○)</p> <p>オ・ホームページのトップページはできるだけ更新を心がけ、新たに校長だよりも新設して12月末で103回更新した。(○)</p> <p>・3年生「課題研究」発表大会、1年生「産業社会と人間」発表大会とも成功した。(◎)</p>